

2000年(平成12年)8月10日(木曜日)

ハートの日

小栗 節子 (愛知県豊橋市一主婦・55歳)

夫が心臓のバイパス手術をすることになった。

「手術室に入る夫に何と言おうか」。手術日の前夜、考えていた。全身麻酔で意識がないのに「頑張れ」とは言いたくなかった。一晩、考えても言葉が見つからなかった。

当日、迎えに来た看護婦さんが「あら、ハイマンの小栗さん」と言った。二人で手術の説明を受けたとき、主治医のO先生に「生まれ変わったら何をしますか」と聞かれ、無言の夫に代わって私が「趣味のハイマンをします。いろいろローションサーターを混ぜたお好み焼き」。



PANASON先生は「それはいい。ハートの日(HEART)ハイムントをください。その時、お願いごまかよ」と言っていた。そこで「手術室ではハイマンのCDをかけましょう。持参の一枚がありますから」。その言葉で夫の顔から緊張が消えた。

「麻酔が効くまで、夫は大好きなハイマンを聞ける」。それだけで私はうれしかった。翌朝、だった言葉もいへや。」「ごちやあは手術室へ見送った。

手術は成功した。ハートの日のコサートに備え、毎日、スチールキターの調子が夫の部屋から流れている。